

高齢化社会の不安

6月9日、中国のネットで河南省商丘市のある103歳の老人が街で乞食をしていると報道された。当然、百歳以上の高齢者が乞食をしていることには市民から大きな関心が集まった。その報道を担当した記者が街でこの高齢の乞食を訪問した際、彼は身分証明書をを見せてくれた。老人の名前は耿生茂、生年月日は1912年1月12日で、もう103歳を超えている。彼の子供は5人で、末っ子と生活している。彼の月収は約6000円の百歳老人特別生活保障費と、毎日乞食して得られる約1000円である。その内彼は一年間で数万円を末っ子に納める。このお金は、万が一自分が病気になる時の為貯金する。

記者は老人に何故この年で乞食

をするかと聞いたところ、彼は乞食以外の仕事が出来ないと答えた。

三十年前から中国が一人っ子の政策を実施している為、今中国は急速に高齢化社会になっている。ある統計によると、中国の60歳以上の老人人口は2億で、その中の半分の1億人は慢性的な病気を患っている。都市の老人の貧困率は23%で、農村の貧困率は30%である。彼らの生活費用はギリギリで、病気になったときには誰も面



等を見てくれないというのが現状である。

当初、一人っ子政策を実施した時、国は国民の不安を解消するため、「計画生育好、国家来養老」（一人っ子政策は良い、老後は政府が面倒を見る）というスローガンを提唱した。現状はそこから完全に外れ、貧困人口の老後生活に対する福祉政策は国から放棄され、悲惨な状態である。

中国国家予算の中、福祉に充てられる割合はかなり低い。政府は老人を扶養の責任を彼らの子供に分担する事を提唱し、中華伝統文化の「孝道」を大きく宣伝している。しかし、今の一人っ子世代は、子供の面倒と年寄りの親の面倒を見ること出来ないと言うのが問題なのである。

もし、中国政府が福祉政策を變更しなければ、これから耿さんみたいなお年寄りの乞食は街のあちこちに溢れることになるかもしれない。